

## 1 ごみ焼却灰の現状

### (1) ごみ保管灰

平成23年7月～平成25年8月までに発生した飛灰（ばいじん）は、コンテナで保管

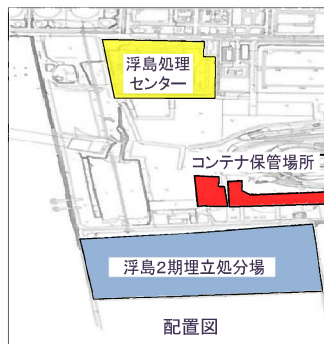
- 保管量 : 約21,000トン（1,210コンテナ）
- 放射性物質濃度：平均約390ベクレル/kg（110ベクレル/kg～1,900ベクレル/kg）
- 灰の特性 : 放射性物質が溶出しやすい

### (2) ごみ新灰

平成25年4月以降新たに発生した飛灰（ばいじん）は、ゼオライト添加による安全対策を行い、主灰（燃え殻）と混合し、浮島2期埋立処分場へ水面埋立を実施。内水濃度は2ベクレル/L～3ベクレル/Lの安全レベルで推移（平成25年4月から段階的に埋立を開始し、平成25年9月から全量埋立開始）

#### ●埋立ての条件

- [埋立時の灰の放射性物質濃度：100ベクレル/kg以下]
- [ゼオライト添加時の放射性物質の水への溶出率：30%以下]
- [埋立処分場の内水濃度：本市管理目標値10ベクレル/L以下]
- (国の水浴場の指針である10ベクレル/Lと同等の基準)



## 2 平成27年度実施 ごみ保管灰の処分検討（実験室レベルでの安全性確認）

ごみ保管灰についても、ごみ新灰同様にゼオライトを添加することにより「放射性物質の水への溶出率を30%以下に抑えられること」及び「浮島2期埋立処分場の内水濃度を10ベクレル/L以下で管理できること」を確認

【確認事項①】ゼオライト添加による放射性物質の溶出試験を実施

⇒ (結果) 「ゼオライト未添加のごみ保管灰の放射性物質の水への溶出率は91%」、**「ごみ保管灰と、ゼオライト添加量を増加したごみ新灰を混合した場合の溶出率は18%」**となり、溶出率30%以下に抑えられることを確認（表1）

【確認事項②】ごみ保管灰の埋立に伴う、埋立処分場の内水濃度の変化についてシミュレーションを実施

⇒ (結果) **本市管理目標値10ベクレル/L以下で推移することを確認**（表2）

表1 ゼオライト添加による放射性物質溶出試験結果

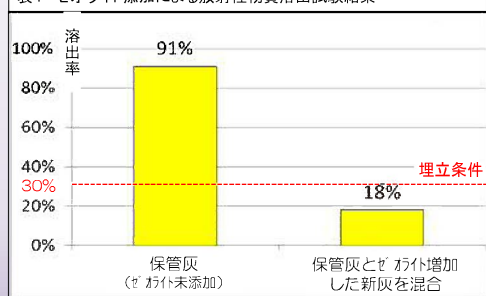
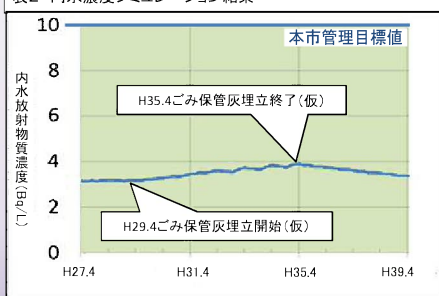


表2 内水濃度シミュレーション結果

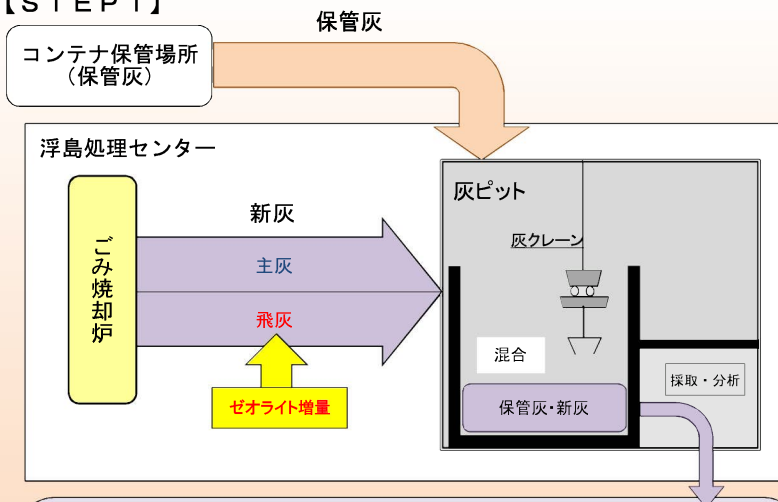


## 3 平成28年度 浮島地区での実証試験

ごみ保管灰を、コンテナ保管場所から浮島処理センターへ運搬し、灰ピット内で、ごみ保管灰と、ゼオライト添加量を増加したごみ新灰を混合し、安全性を確認したうえで、試験的埋立を実施

### <実証試験フロー>

#### 【STEP 1】



#### 安全性の確認

- a 灰ピット内で混合した灰の放射性物質濃度を確認（100ベクレル/kg以下）
- b 灰ピット内で混合した灰の放射性物質の水への溶出率を確認（30%以下）

#### 【STEP 2】

STEP 1の安全性確認後、浮島2期埋立処分場で試験的埋立を実施し、内水への影響がないことを確認

## 4 今後のスケジュール

- 平成28年度（上半期）：実証試験STEP 1（浮島処理センターでの安全性検証）
- 平成28年度（下半期）：実証試験STEP 2（浮島2期埋立処分場への試験的埋立）
- 平成29年度以降 : 試験的埋立の継続実施